

国語科学習指導案

日 時 平成25年10月9日(水) 5校時
生徒 1年B組(男子12名 女子20名 計32名)
場所 久慈市立長内中学校1年B組教室
授業者 藤森 崇浩

- 1 単元名 「少年の日の思い出」のエピローグを作り、物語を完成させよう
中心教材「少年の日の思い出」(東京書籍「新しい国語1」)
補助教材「わらぐつの中の神様」(光村図書「国語五 銀河」)

2 単元を貫く言語活動とその特徴

単元を貫く言語活動として、「エピローグ」を作ることを位置づけ、課題解決的に文章を読み進めることとした。エピローグを作るためには、まず、場面の展開を捉え、プロローグ(場面一)とつながるように、内容面と形式面の両面で必要な要素を確認する必要がある。内容面では、過去を振り返って登場人物が会話することから、登場人物の設定および人物相互の関係を把握する必要がある。また、過去の出来事とそのときの心情を理解し、会話の流れを考えなければならない。形式面では、作品の表現上の特徴や話の構成の工夫について理解し、エピローグを組み立てる必要がある。本作品は、巧みな情景描写と会話により過去への導入部が構成されていることから、その特徴を自分なりに生かしながらエピローグを構想させたい。

エピローグを作る要素として、情景描写と人物の会話を盛り込むこととする。この二つの要素を中心となる視点とし、課題解決的に作品を読み進める中で付けたい力を身に付けられるものとする。

3 単元について

(1) 生徒について

授業に前向きに取り組む生徒が多い。積極的に発言をする生徒が多いが、その反面、叙述をもとにじっくりと人物の心情を考えたり、場面の展開を捉えたりすることを苦手とする生徒も少なくない。

これまでの学習では、「遠い山脈」「さんちき」という二つの文学的文章の学習をしてきた。学習を通して、場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てることができるようになってきたと感じている。また、「さんちき」では、将来大人になった三吉の心情を想像し、セリフと情景描写を入れて、「続き話」を書く活動を行った。この学習活動は本単元の言語活動に生かされるものとする。

前年度の岩手県学習定着度状況調査の結果、特に「文章中の場面の展開をとらえる。」の項目に落ち込みが見られた。校内の定期テストでも、類似する問題に対する正答率は低い。本単元では、まず、時間の変化や情景描写に着目させ、場面の展開をとらえさせたい。そのうえで、情景描写と会話に視点を置いて、登場人物の心情の変化や登場人物相互の関わりについて注意して読み、内容の理解に役立たせたい。

(2) 教材について

本教材は、「現在」・「過去」で物語が閉じ、不完全な「額縁構造」の作品である。宝物であったチョウを一つ一つ指で押し潰した少年に対し、読者は様々な思いを抱きながら、その後の少年について想像を掻き立てられる構成になっている。

本教材の表現上の特色として、巧みな情景描写が挙げられる。光の明暗によって表現される過去への誘いや人物の心情は、生徒の印象に強く残るものであり、今後の文学的文章の学習においてとても価値のあるものである。

生徒にとって難解な語句が本文中に多く出てくるが、「エピローグを作る」という課題解決に向けて、

積極的に辞書で意味を調べ、文脈上における意味を自分なりに考える生徒の姿が期待される。

(3) 単元構想と指導について

第一次では、初発の感想やこれまでの学習の振り返りから物語の構成上の特徴について気づかせ、「エピローグを作る」という単元のゴールを設定する。次に、「わらぐつの中の神様」を補助教材として、導入部における効果的な伏線とエピローグを作るための要素、これからの学習の見通しについて確認をする。

第二次では、課題解決のために、目的的に物語を読み進めさせたい。まず、物語の構造と人物相互の関係について大きく捉えたうえで、内容理解に入る。次に、プロローグ（場面一）から表現上の特徴について考えさせ、情景描写により時間の変化と人物の心情が効果的に表現されていることに気付かせる。そして、回想場面について、「僕」の心情の変化に注意しながら一気に読ませ、場面一と重ねて読むことで、第一場面の客の心情についての理解を深め、エピローグの構想を練らせる。

第三次では、「客」に過去を振り返らせ、当時と今の心境を会話と情景描写によって表現させる。エピローグの最後は生徒に委ねることとするが、プロローグとのつながり、回想場面での心情の変化に基づいて、妥当性のあるものを書くように指導する。

4 単元の指導目標と評価規準

(1) 文章の表現に着目して読み、内容の理解に役立てようとしている。

【国語への関心意欲態度】

(2) 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てることができる。

【読むこと (ウ)】

(3) 文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつことができる。

【読むこと (エ)】

(4) 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して読むことができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・文章の内容や表現に関心をもち、エピローグを作ろうとしている。	・エピローグを作るために、登場人物の心情や行動、情景描写に注意して読み、内容の理解を深めている。(ウ) ・エピローグを作るために、構成や表現上の特徴に着目し、その工夫や効果について、自分の考えをもち生かそうとしている。(エ)	語句の文脈上の意味を捉え、それが文章の中で果たしている役割を考えながら読んでいる。

6 単元の指導計画（9時間）

	学習活動	評価規準	留意点	時
第一次	○学習の見通しをもつ。 ・既習の文学教材を振り返る。 ・作品の構成を概観する。 ・エピローグを作る学習の見通しをもつ。	学習の見通しをもち、エピローグを作ることに興味をもっている。 【関心・意欲・態度】 観察・評価シート（振り返り）	「わらぐつの中の神様」のエピローグを提示し、エピローグに必要な要素を確認する。	2
第二次	○場面の展開と人物相互の関係をつかむ。 ・作品構成図を作成し場面の展開および登場人物同士の関わりをとらえる。 ・ エピローグの構成を考える。	作品構成図の作成を通して、場面の展開および人物相互の関わりについて理解している。 【読むこと（ウ）】 ノート・評価シート	場面の転換と人物相互の関係をつかむことにより、エピローグへの流れをイメージさせる。	1
	○場面1（現在）を人物や情景の描写に注意して読む。 ・情景描写に注意しながら、人物の心情や時間的、空間的な場面の展開をとらえる。	情景描写によって、時間や空間が変化していることを、人物の心情と合わせてとらえている。 【読むこと（ウ）】	・情景描写（明暗）によって、焦点化されるものが変化し、過去の世界へ誘う表現の効果を理解させる。	1
	○場面2・3・4（回想）を人物や情景の描写、言動に注意して読む。 ・「僕」の心情の変化をとらえる。	人物や情景の描写、言動に注意して読み、「僕」の心情の変化をとらえている。 【読むこと（ウ）】 ワークシート・評価シート	「僕」がちょうをつぶすにいたるまでの、気持ちの変化についてとらえさせる。	1.5
	○場面1（現在）と場面2・3・4（回想）とを重ねて読む。 ・場面1の人物の心情および表現の効果について理解を深め、エピローグの構想について考える。	場面1の人物の心情や表現の効果について理解を深め、エピローグ作りに役立てようとしている。 【読むこと（エ）】 ワークシート・評価シート	現在と過去を重ねて読むことによって、「客」の心情理解を深めさせるとともに、エピローグの構想を立てさせる。	1.5
第三次	○エピローグを作るために述懐場面を選び、客の会話および情景描写について考える。 ・当時の「僕」の気持ちを中心に客の会話を考える。	人物の言動や描写から、当時の「僕」の心情を理解し、それを振り返った今の心境を適切に考えている。 【読むこと（ウ）】 ワークシート・評価シート	過去を振り返らせることにより、当時の「僕」の心情および現在の心境について考えさせる。	1 (本時)
	○エピローグを完成させ、交流する。 ・お互いのエピローグを読み合い、「客」の心情と情景描写の効果について考える。	場面1の表現の効果を考え、会話や情景描写を工夫してエピローグを考えている。 【読むこと（エ）】 ワークシート・評価シート	場面1の効果的な表現をエピローグに生かせるようにアドバイスする。	1

7 本時の指導

(1) 本時の目標 エピローグについて考え、「客」(僕)の心情について理解を深めることができる。

(2) 評価規準

A 十分満足できる	B おおむね満足できる	Bに至らせるための手立て
・会話の心情の豊かさ ・情景描写の工夫	人物の言動や描写をもとに、当時の「僕」の心情と今の心境を関連付けて考えている。	心情曲線のキーワードを手がかりに、心情を表す言葉に着目させる。 構想メモ及び感想語彙集を参考に、人物の心情について考えさせる。

(3) 展開

段階	時間	主な学習活動	指導上の留意点（・）と評価（◆）
導入	5分	1 学習課題の把握 課題を確認し、見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">客の気持ちを考え、エピローグを作ろう。</div>	学習の必然性を見通しをもたせる。 エピローグの書き方について、確認させる。
展開	40分	2 課題追究 (1) エピローグで述懐する場面を選ぶ。 ・エピローグで客（当時の僕）が述懐する場面を選ぶ。 (2) 述懐する内容を考えて書く。 ・当時の「僕」の心情を考え表現する。 ・当時を振り返った「客」の今の心境を考え表現する。 ・「客」の今の心境に適した情景描写を考える。 3 交流 (3) グループで交流する。 <交流する際の観点> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ・当時の「僕」の気持ちがよく伝わるように書いているか。 ・今の「客」の気持ちがよく伝わるように書いているか。 ・今の気持ちに合った情景描写を書いているか。 </div> (4) 代表者による発表。 (5) 自分のエピローグを再考する。	<述懐場面を選ぶ際の留意点> ・主題に係わる場面（一番忘れられない場面）を選ばせ、その理由について自分の考えを持たせる。 <述懐をまとめる際の留意点> ・叙述を基に、できるだけ自分の言葉を使って詳しく書かせる。 ・過去の思い出をもとに、どんなことを伝えたいのかを考え、今の心境を表現させる。 <情景描写を考える際の留意点> ・客の心境にふさわしい情景を、ランプや月明りなどの光の明暗を使って表現させる。 ◆学習シートの記述内容 <交流をする際の留意点> ・友達の良いところを自分のエピローグに生かすという目的でお互いのものを読みあう。 ・友達の良いところ（どんな言葉や表現つかっているか）を見つけ、メモをする。 ・交流の観点に沿ってグループで1番よく書いていたものを選ぶ。 【選ぶ観点】 （当時の気持ち、現在の心境、情景描写の順） ・グループの交流および代表者の発表を基に、自分のエピローグを再考する。
終末	5分	4 本時のまとめと次時の予告 【まとめ】 ・学習の振り返りをする。 ・次の時間にエピローグを完成させることを確認する。	・本時の学習を振り返らせる。 ・次時の内容を確認させる。 ◆評価シート